

峠サミットをふりかえって

2001 峠サミットin真室川 ～峠が結ぶ人と人～



① サミットに集まった各市町の皆さん
② ロビーでのパネル展示 ③ 基調講演 講師 大友義助氏 ④ 峠サミットで論議を繰り広げる各市町長 ⑤ 物産の展示(由利本荘市・鳥海町)・大崎市(鳴子町))



2007 峠サミットinまむろ川Ⅱ ～峠が結ぶ人と人～



① 小町太鼓保存会(湯沢市) ② 鬼ノ國心鼓会(大崎市) ③ 基調講演 講師 結城登美雄氏 ④ 峠サミット宣言案の朗読 ⑤ 峠の茶屋 ⑥ 真室川音頭の輪踊りに各市町の参加者も入りました



2013 ラスト峠サミットinまむろがわ ～峠がつむいだ ひと・もの・こころの交流～



① オープニングセレモニーで真室川音頭を披露 ② 6 市町の特産品を来場者にプレゼント ③ 基調講演 講師 吉田昭二氏(国土交通省東北運輸局 企画観光部長) ④ 花はな倶楽部(最上町) ⑤ 女性和太鼓団体・響華(金山町)



ラスト峠サミット

～峠がつむいだ ひと・もの・こころの交流～



峠サミットとは

歴史と文化の結節点である「峠道」に着目し、湯沢市、金山町、最上町、大崎市、由利本荘市、そして真室川町が、道路整備の促進を目指してともに手を携え、意見を集約する場として開催してきました。毎年、この6市町により持ち回りで開催されてきた峠サミットは、18年間という長い歴史を歩んできました。3 順目の最後となる真室川での開催を持ってその役割を一旦終えることになりました。

峠サミットの役割

平成8年に、雄勝町(現在の湯沢市)で開催されたのが始めです。このサミットにより、山陵で隔てられ、県境で分断されていた鬼首峠、松ノ木峠の二つの峠道が通年通行となりました。また、主寝坂道路、雄勝こまちインターチェンジが開通するなど東北中央自動車道の一部供用開始が進み、この地域を結ぶ峠道は高速交通網に組み入れられるまでになりました。

峠サミットの効果

また、2 巡目からは、東北の中央に位置するこの地域を、産業と文化が行き交う『東北ど真ん中交流圏』と命名しました。観光や物産交流では、「峠の茶屋」を設け、各市町の特産品を知る絶好の機会となりました。本年は、収穫祭との合同開催という形をとり、峠サミットからは、金山町と最上町、湯沢市が参加し、峠サミットを基軸にした物産交流を大いにアピールしました。

文化面では、「峠の交流ステージ」を設け、番楽や童唄、囃子などの郷土芸能団体に参加していただき、6 市町の伝承文化を披露していただきました。観光や物産、文化等多方面にわたって交流を重ね、互いの魅力を確認し、切磋琢磨してきました。

峠サミットの先を見つめて

峠サミットを開催してから、平成の大合併により3つの市が誕生し(湯沢市・雄勝町、大崎市・鳴子町、由利本荘市・鳥海町)、峠サミットを構成する市町を取り巻く状況は立ち上げ当初と大きく変わってきました。それぞれの市町が抱える課題や方向性も多方面に及んでいることから、一つの区切りをつけることになりました。

今後は、峠サミットで培った縁と交流を大切にし、明るく、活力ある地域の創造に向けて、新たな一歩を踏み出します。

